

平成 28 年度採択 文部科学省 私立大学研究ブランディング事業タイプ B(世界展開型)
「上皮バリア機構の不全により生じる疾患の克服を目指したブランディング事業」

第 6 回 生体防御基盤研究セミナー

日時:2018 年 9 月 21 日(金曜日) 17:00~18:30

場所:東邦大学 医学部 3号館地下1階 第3講義室

小林 弘一 先生

北海道大学 医学研究院
病理系部門 微生物学免疫学分野 教授

「MHC class I transactivator NLRC5: 癌と病原体に対する クラス I 依存性免疫応答のマスタースイッチ」

CITA/NLRC5: a master regulator of MHC class I-dependent immune responses

講演要旨

主要組織適合遺伝子複合体(major histocompatibility complex; MHC)class I(MHC-I)は細胞内抗原提示により CD8⁺T 細胞の活性化を起こし、ウイルス感染、癌、移植時免疫応答に必須です。しかしながら、MHC-I の発現調節機構は長年の間、大部分が不明のままでした。最近発見された MHC-I 遺伝子の転写活性化因子(MHC class I transactivator; CITA)である NLRC5 は MHC class I 経路に関わる主要遺伝子の発現を制御しています。NLRC5 の機能とその癌免疫における役割について議論します。

References:

1. Meissner TB, et al. (2010). NLR family member NLRC5 is a transcriptional regulator of MHC class I genes. *Proc Natl Acad Sci USA*. 107 (31): 13794-9.
2. Kobayashi, K.S. et al. (2012) NLRC5/MHC class I transactivator: a key regulator of class I mediated immune responses. *Nat Rev Immunol*, 12(12):813-20.
3. Yoshihama, S. et al. (2017) NLRC5/CITA: a key player in cancer immune surveillance *Trends Cancer*. 3 (1): 28-38.

世話人:中野 裕康(医学部 生化学講座 大森内線 2355)